

实用新案登録願 1974

(1,500円)

昭和49年6月19日



特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 考案の名

カクラン クイリニクソウテ  
架空線の係留装置

2. 考案者

实用新案登録出願人と同じ

3. 実用新案登録出願人

アラオ レナクラヤマチ

住所 熊本県荒尾市桜山町2丁目4番9号

ヨレ タタカヒナ

氏名 吉田 孝久

4. 代理人 郵便番号 860

住所 熊本市黒髪2丁目33番15号

氏名 (5398) 弁理士 穴見之武義

電話 (0963) 43-4734



5. 添付書類の目録

(1)明細書 1通 (2)図面 1通

(3)願書副本 1通 (4)委任状 1通



49-072192



## 明細書

### 1. 考案の名称

架空線の係留装置

### 2. 実用新案登録請求の範囲

ウレタンゴム、合成樹脂等をもつて適径の孔(1)を開孔し外周面を1端よりテーパー面(2)となした筒体(3)を形成し、該筒体(3)の他端外周面にフランジ(4)を突設させると共に1端より他端まで直線状の挿入孔(5)を切欠開孔させ、L型状の板片(6)の垂直部に筒体(3)を嵌着し得る孔(7)を開孔させると共に垂直部の上端中央より孔(7)まで溝(8)を切開させ、垂直部の孔(7)の正面縁部にフランジ(9)を突設させ、板片(6)の水平部の背面端にL型状の板片(10)を垂下設し、該板片(10)にボルト(11)等の締着金具を捻着すべくなして成る、架空線の係留装置。

### 3. 考案の詳細な説明

従来、電気工事等において配電線や引込線等を架設する場合においては、タバ状やドラム巻状になつている電線の1端を電柱等の腕木に載架せながら延線して行き、適間隔において電線の1端

を腕木に仮係留させ、他端部をバイス等に係着させて緊線させた後に各電柱の腕木に立設させた碍子にバインド線で電線を緊ばくする様になしてい るため、電線の仮係留に手間を要するものであり、また、各類架空線を架設する場合に両端部を支持物に係留させるのに手間を要する等の欠点があつた。

本考案は、上記諸欠点を解消する目的において、各類架空線の係留を簡易にして高能率になし得る様になしたことと特徴とする装置の創作に係るものである。

以下、実施例図により本考案の構成を説明する。

ウレタンゴム、合成樹脂等をもつて適径の孔(1)を開孔し外周面を1端よりテープ一面(2)となした筒体(3)を形成し、該筒体(3)の他端外周面にフランジ(4)を突設させると共に1端より他端まで直線状の挿入孔(5)を切欠開孔させ、L型状の板片(6)の垂直部に筒体(3)を嵌着し得る孔(7)を開孔させると共に垂直部の上端中央より孔(7)まで溝(8)を切開させ、垂直部の孔(7)の正面縁部にフランジ(9)を突設させ、

板片(6)の水平部の背面端に L型状の板片(10)を垂下設し、該板片(10)にボルト(11)等の締着金具を捻着すべくなして成るものである。尚、図中(12)は架空線を示す。

つぎに、実施例図により本考案の作用効果を説明する。

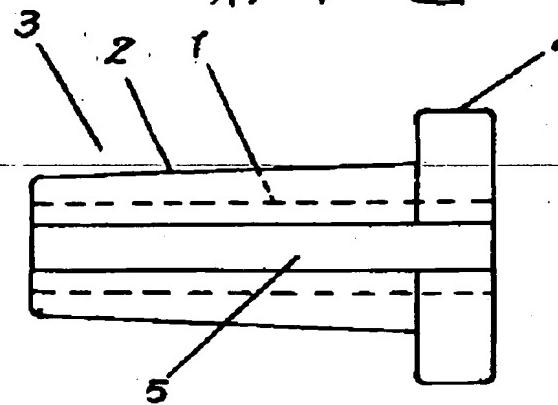
各類架空線(12)を適高さに架設する場合においては、対向する支持物の適高さ位置に L型状の板片(6)を対向させて下面のボルト(11)等により締着させ、該板片(6)の垂直部の孔(7)に背面より筒体(3)の先端部を挿入させて遊嵌状態となすと共に、該筒体(3)の挿入孔(5)を上向きとなして板片(6)の溝(8)と合致させた後に架空線(12)の 1 端部を溝(8)、筒体(3)の挿入孔(5)を通して筒体(3)の孔(1)内へ挿入させ、挿入後において筒体(3)のフランジ(4)を握持しながら該筒体(3)を所望角度回動させて溝(8)と挿入孔(5)とを閉鎖すると共に、筒体(3)を背面より押圧してテーパー面(2)を板片(6)の孔(7)並びにフランジ(9)の内周面に強圧に嵌着させるもので、筒体(3)の挿入孔(5)は閉縮しながら孔(1)は縮径されるので孔

(1)の内周面は架空線(12)の外周面に強圧に圧着し、架空線(12)と筒体(3)の孔(1)の内周面との摩擦抵抗により架空線(12)を係留するものであり、架空線(12)の他端部においても同様にして係留することにより架空線(12)を所望の高さに簡易に係留させ得るものである。架設した架空線(12)の緊張度が増加すれば、筒体(3)は板片(6)の孔(7)内に強圧にくい込みしながら係止力を増加させる効果があり、電線や各類架空線の係留を至極容易になし得ると共に、一旦架設した架空線を脱架する場合においても筒体(3)のフランジ(4)を握持して板片(6)の孔(7)より筒体(3)を脱嵌させることにより容易に脱架させ得るもので、家庭内においても各類紐の張設に利用し得る等、前記した様な顕著な諸効果を奏するものである。

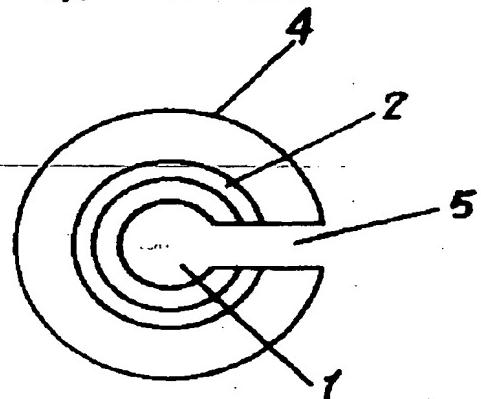
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例に係る筒体の側面図、第2図はその正面図、第3図はL型状の板片の正面図、第4図はその側面図、第5図、第6図は架空線の係留を示した一部正面図である。

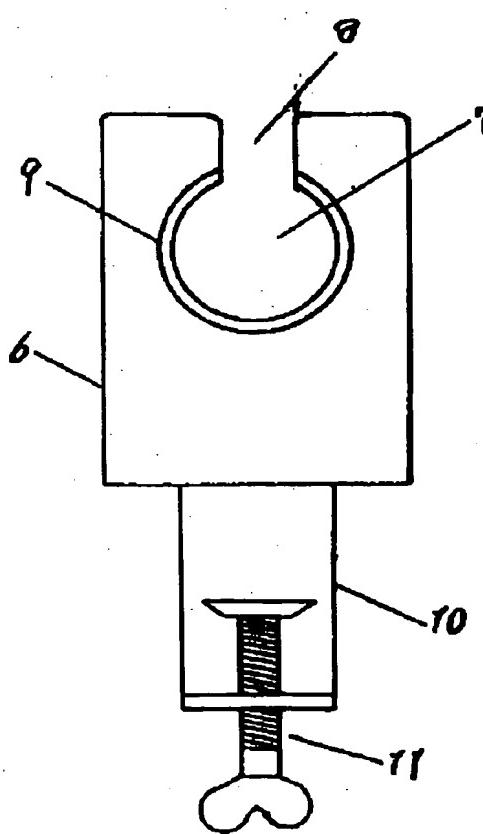
第1図



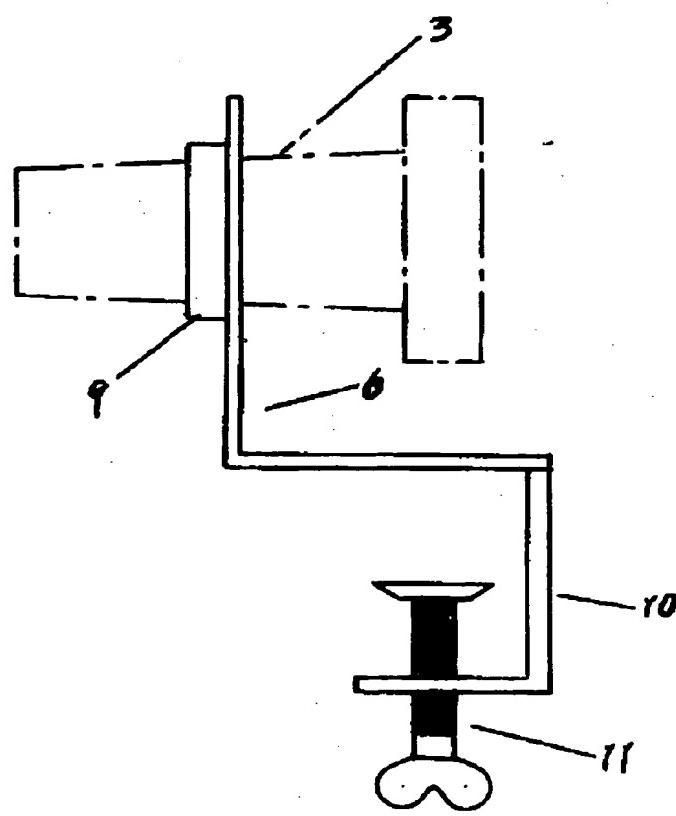
第2図



第3図



第4図



实用新案登録出願人

代理人

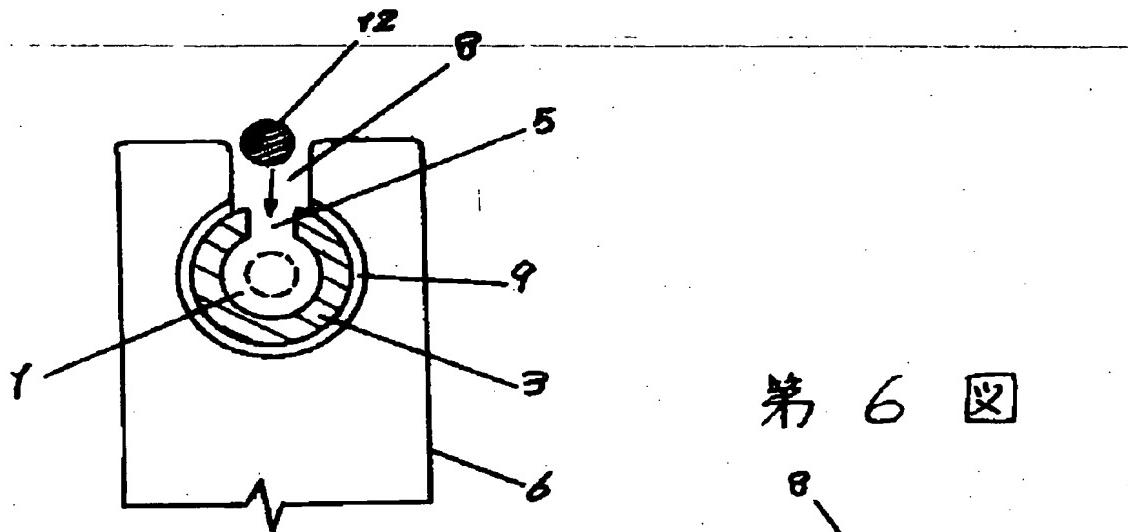
1793 1/2

吉田孝久

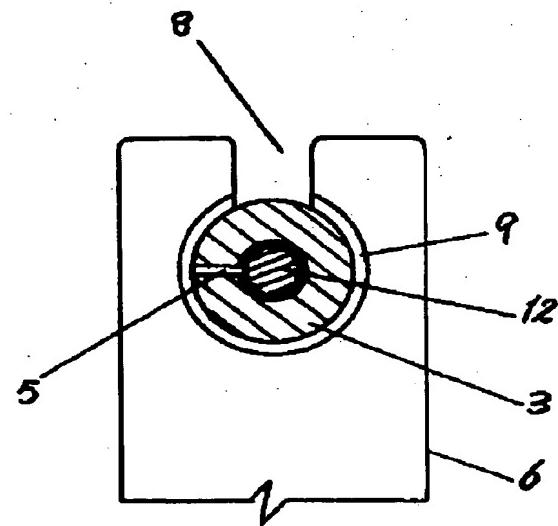
允見之式



第5図



第6図



BEST AVAILABLE COPY

实用新案登録出願人  
代理人

1793年2月

吉田孝久  
窓見理士

